

全中学校で必修科目となる武道教育推進のために稽古場、道場の設置を 串田 金八 議員

質問 我が国固有の伝統文化武道教育が24年度から必修科目として全中学校で実施されることとなり、先人が築き上げた美しい技を正確に学ぶことは日本人として必要なしなみであると思うが、市内に道場はなく、各中学校の体育館に畳を敷いて行うのか。また指導者の準備について伺いたい。

教育長 各中学校に専用の武道場はなく、各校の体育館を使用する。指導者は各中学校の保健体育科の教員が学習指導要領に基づき指導し、授業とし

て年間指導計画に基づき計画的に指導し、評価することとなる。



▲中央体育館 柔道場

一般質問 (要旨)

市政のここが聞きたい

今定例会では、14人の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。今回から一問一答方式が本格実施となり、一括方式、一問一答方式、併用方式（一括と一問一答の併用）、の3種類の選択制で、いずれかを議員が選択し、質問しました。

概略の掲載は一問とし4ページから5ページに掲載しました。一般質問の項目は6ページにすべて掲載してあります。

詳しくは、5月下旬発行予定の会議録を市役所情報コーナー及び図書館でご覧いただくか、福生市ホームページからご覧ください。

なお、この一般質問の掲載内容は、質問議員に確認してあります。

新年度における35人学級実現に向けての取り組みは 田村 正秋 議員

質問 政府は現在の公立小・中学校1クラスの上限人数は40人を新年度から35人に引き下げることを目指すとしていたが、財政事情により大幅な教員増は難しく、まずは小学校1年生のみと改め、また市町村教育委員会が実情に応じて柔軟に編成できるとのことだが、どのようにとらえているか伺いたい。

教育長 2月4日に平成23年度から小学校1学年の1学級の人数の上限を現行の40人から35人に引き下げる義

務教育標準法改正案が閣議決定され、国会での法案成立を待っている状況である。



▲授業風景（第一小学校）

平成23年度市政運営 市民に最も多く発信し協力いただきたい施策は 田村 昌巳 議員

質問 市長にとっては3回目の予算編成で、大変な御苦労があったと察するが、数多い施策の中で市長の思い入れの強い施策とその背景、また、市民の方々に多く発信し、協力をいただきたい施策について伺いたい。

市長 大規模事業では牛浜駅自由通路整備事業、都市経営の視点からシティセールス事業、ワクチン接種の負担軽減、すみれ保育園民営化に向けた準備、さらに議員提案による「福生市清潔で美しいまちづくり条例」の施行

に伴う、清潔で美しいまちづくり事業を積極的に推進していきたい。



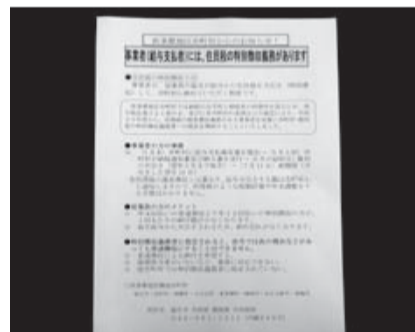
▲観光案内所：くるみる ふっさ

市が進める住民税特別徴収 その効果などの概要は 武藤 政義 議員

質問 規模が小さな事業所の給与所得者においては、普通徴収が一般的であると思うが、事業者が住民税を給与から天引きし、取りまとめて納付する住民税特別徴収を推進していることについて、目的、効果などを伺いたい。

市長 地域一体として進めた方が効果は大きいので、西多摩8市町村で統一し、特別徴収推進をしているが、納税の公平性・平等性の観点に加え、市税全体の収納率向上が図られ、また納税者側も給与天引きにより1回の負担

も少なく、手間も省ける等のメリットが大きいと思われる。



▲特別徴収の案内

年々低下する子どもの体力、運動能力向上に向けた取り組みは 清水 義朋 議員

質問 昭和60年をピークに子どもの体力、運動能力は低下の一途をたどっており、体力のついでの子とそうでない子との二極化の現象にあると言われているが、福生市の状況は。また体力低下に歯止めをかけるための対応について伺いたい。

教育長 子どもの体力向上は喫緊の課題であり、各学校には体育の授業の充実、学校にいる時間を活用した日常的な取り組みの推進、東京都の「一校一取組」「一学級一実践」などのさま

ざまな体力向上策も実践し、地域とも連携しながら児童・生徒の体力向上を図っていききたい。



始まる新学習指導要領 独自性のある道徳教育は 末次 和夫 議員

質問 道徳の授業は、独自性が出る科目と思うが、指導要領にもある程度合致し、児童・生徒の興味をそそり、夢や希望を与えられるような授業にできないか。例えば高学年以上には物語性のある国内外の偉人伝を中心とした授業などはできないか。

教育長 道徳副読本では、自己を見つめ直すねらいから多くの偉人伝が取り上げられており、また、NHK教育テレビの道徳番組やウェブ上でのコンテンツを活用するなど、児童・生徒が

興味を持って授業に臨めるような教材を効果的に活用しながら、計画的に指導していきたい。



▲伊能忠敬像（千葉県佐倉市）

五日市街道拡幅に伴い基地引込線の踏切を信号機に変更する考えは 乙津 豊彦 議員

質問 引込線は平成19年当時は1日4本程度、現在は1週間に4本程度列車が通過しており、踏切を信号機に切り替えることで一時停止がなくなり渋滞の解消、CO2削減などの効果が見込まれるが、法令等の制約など解決すべき問題があるとのことだが、今後の対応を伺いたい。

市長 この踏切を信号機に変え、一時停止義務がなくなれば、国道16号線から五日市街道への車の流れも良くなる。信号機への切り替えに向け、福

生警察署、国土交通省など関係機関と実現化に向けた相談を図り、今後も根気強く取り組んでいく。



▲横田基地引込線踏切